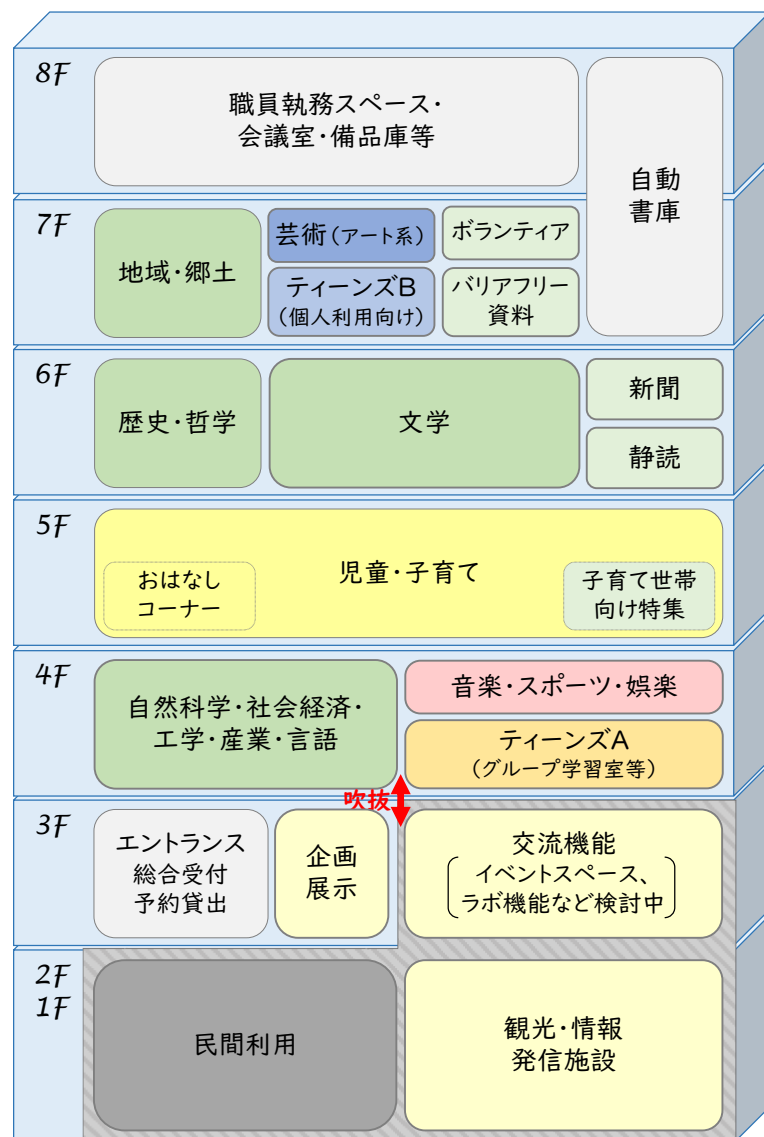


A 案

- ☆全体として下から上に向かって、動（賑やか）→静（穏やか）になっていく流れとし、ティーンズエリアも、静（個人向け）と動（グループ向け）に分けて配置。
- ☆下層階の賑わい連鎖を重視し、3-4階は吹抜けてつながる構成。
- ☆4～7階の各フロアに蔵書につながるミニ展示コーナーを設置。



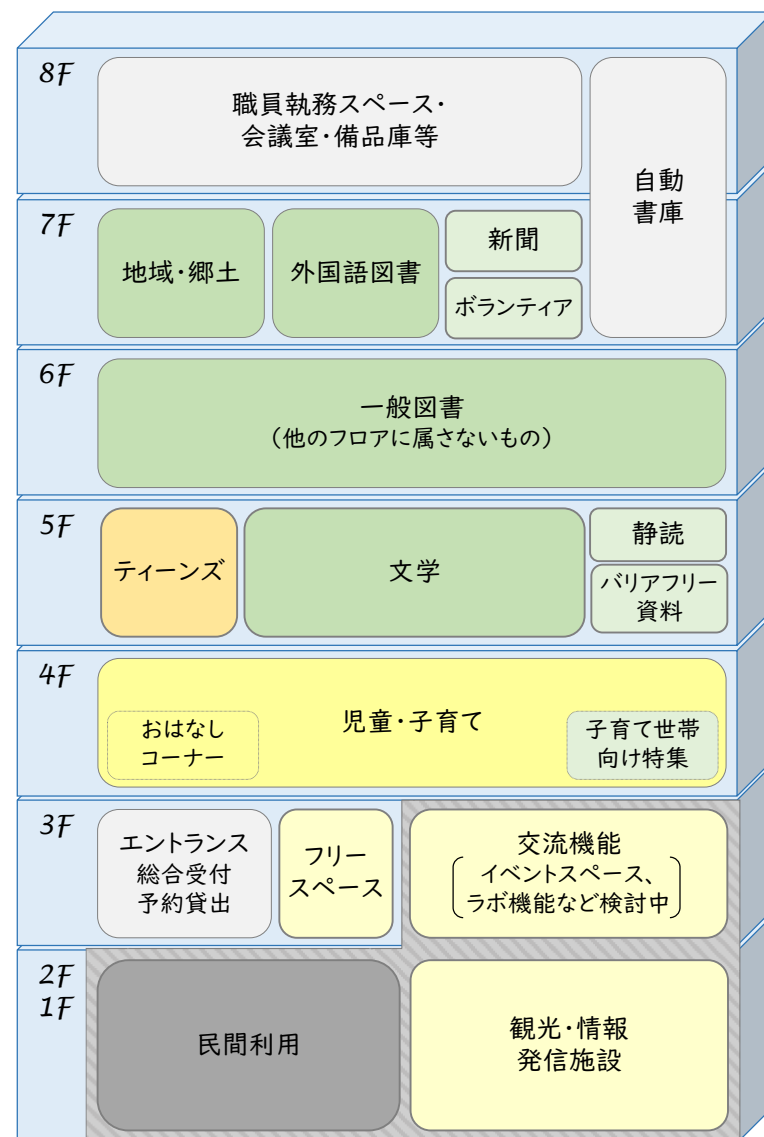
- 【7階】 利用者供用フロアの最上階に、個人学習向けのスペースを確保。地域・郷土資料やアート系図書も目にふれやすいラウンジ的な空間とすることで、シビックプライドの醸成や情操の涵養に寄与することをねらう。
- 【6階】 落ち着いて読み物に触れるフロア。静読用の閲覧席を多めに配置。
- 【5階】 児童書のフロア→一定の音を許容する前提。子どもを見守りながら保護者が読めるものとして子育て世帯向けに発刊されている図書（育児関係、進学案内、ファミリー向けお出かけ情報誌等）も配架。
- 【4階】 音を許容するフロアと位置づけ、グループ学習室を配置。⇒グループ学習の素材となり得る、学習要素を含むジャンルの図書を配架。また、アクティブな趣味・趣向のジャンルの図書を配架。

※3階の活動・イベントの賑わいが4階にも伝わるよう、3-4階を吹抜けてつながる。

- 【3階】 館全体の入口となる総合受付と併せて、予約本の受取コーナーを設置。また、その時々世間の話題に関連する書籍・資料等を特集した企画展示を展開。

B 案

- ☆基本的には下層階から上に向かって、動（賑やか）→静（穏やか）になっていく流れであり、かつ、子ども→ティーンズ→成人という成長の流れに沿った展開。
- ☆有事の避難弱者（乳幼児・障害者）が利用するフロアをなるべく低層階に配置。
- ☆4～7階の各フロアに蔵書につながるミニ展示コーナーを設置



- 【7階】 地域資料や郷土作家コーナー、外国語図書など、利用目的が比較的明確に絞られる資料を上層階に配置。
- 【6階】 他のフロアに属さない一般図書を配架。
- 【5階】 ティーンズ向けのエリアとしてグループ学習室等を配置。ライトノベルから本格小説まで「読み物」をまとめて配架する考え方。（中高生も小説を、大人もライトノベルを気軽に手に取れるようにという配慮）落ち着いて読書出来る閲覧席も多めに確保。障害者サービス（点字資料・録音資料・大活字本・対面朗読室等）はなるべく低層階にと配慮。
- 【4階】 児童書のフロア→一定の音を許容する前提。子どもを見守りながら保護者が読めるものとして子育て世帯向けに発刊されている図書（育児関係、進学案内、ファミリー向けお出かけ情報誌等）も配架。ベビーカー利用などがあることも踏まえ、有事の際に避難しやすいよう、低層階に配置。
- 【3階】 館全体の入口となる総合受付と併せて、予約本の受取コーナーを設置。また、メーカースペースの設置も検討。